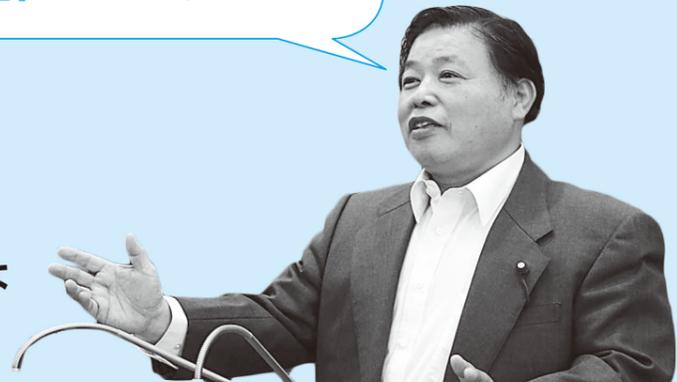


「たまりん」の路線の運行見直しはあるか



石内 國雄



町長

計画を策定し、総合的な交通網の再編を目指す



利用者が減少している「たまりん」

質問 玉村町の発展、人口増加への政策として、公共交通の充実と確保は有効・不可欠と考える。「たまりん」の公共交通の位置づけ、路線の運行・方針の見直しはあるか。

答弁 町長 「たまりん」は運行開始から15年を迎える。利用者は平成18年度の2万7791人をピークに減少し、平成27年度は1万5934人であった。減少の要因として、運行形態と住民ニーズの乖離、運

行間隔、利用者の高齢化、目的地の重複、移動手段の多様なものが推測される。住民のニーズを再調査し、運行の見直しを考えている。「たまりん」を初め、路線バスやタクシー、福祉輸送等、公共交通に携わる主体の合意のもと、まちづくりと連携した公共交通のマスタープラン「地域公共交通形成計画」を策定し、総合的な交通網の再編を目指したい。

質問 総合的な交通網の検討はどのように進めるのか。

答弁 生活環境安全課長 平成28年度に乗降者データを収集、平成29年度に計画の策定、平成30年度には試行、その後、運行を考えている。

通勤・通学の利便性を高める運行を

質問 通勤・通学の利便性を重点的に高めることが玉村町の質・評価を高め、人口増につながる。巡回からピストン運

行、新町駅を使つての東京都・埼玉県への通勤者の呼び込みを視野に入れた運行が必要と考えるか。

若い人のニーズを把握せよ！

答弁 生活環境安全課長 通勤・通学等の利便性の向上により、利用者が増加すると思う。バス・タクシー等との整合性を検討し、よりよい方法を考えたい。

質問 町民のニーズを把握するには、若い人の意見も必要。女子大生・高校生・中学生などの意見を取り入れ、未来・将来の交通も視野に入れた検討を望む。

答弁 生活環境安全課長 若い方の意見も伺うため、アンケート調査を考えている。また、玉村町と似た環境の他市町村の情報も把握したい。

「たまりん」の買い物支援活用と早期の公共交通網計画の策定を求む



三友 美恵子



町長

※1 デマンド方式を活用した買い物支援を検討する

質問 乗り合いタクシー「たまりん」の利用者が減少している。利用促進のためにどのようなことをしてきたか。

答弁 町長 回数券の発行を始めた。

質問 「たまりんは乗りづらい」という指摘への対策は考えているか。

答弁 町長 利用者の声にあるとおり、乗り換えをしないと目的地にたどり着けない、本数が少ないなど不便さがあることは承知している。車両3台でほぼ隙間なく運行している。コースや停留所を減らすなどの対策をしないと本数は増やせない。

質問 高齢者の免許返納者に「たまりん」の回数券を渡していると思うが、返納後の支援に対してどのように考えるか。

答弁 町長 返納後、申請があれば回数券5つづりを渡している。その他の支援につ

ては今後検討する。

質問 デマンド方式の運行を考えたとき、高齢者の買い物支援に「たまりん」を有効利用できると思うかどうか。

答弁 町長 買い物支援にも利用できるかと考えるため、今後ともニーズの把握に努めている。

質問 第5次玉村町総合計画における東毛広域幹線道路急行バス実現活動の進捗状況は。

答弁 町長 高崎駅から太田市までの急行バスの運行が実現し、道の駅玉村宿に停留所が設置されれば、相当なメリットがあると考えている。高崎市の副市長とは、運行に向けて協力し合うことで合意を得ている。

質問 「たまりん」、3路線のバス、タクシーそして急行バスなどの相互乗り入れを総合的に整備するため、玉村町の公共交通網計画を策定し、都市計画のまちづくりと連携させて、



「たまりん」も発着する玉村町役場バスターミナル

※1「デマンド方式」利用者が電話等で予約できる運行方式。